

1~3面 ユースMEETS政治

4~7面 日本YWCAのリーダーシップ養成プログラム
私たちは未来のチカラ

ユース
MEETS
政治

お笑いジャーナリスト

たかまつなな

1人の100歩より
100人の1歩で
社会は変わる

profile

1993年生まれ。フェリス女学院中
高卒。慶應義塾大学総合政策学部
卒、同大学院大学院情報学環教育
および東京大学大学院情報学環教育
部を修了。大学時代に「お嬢様芸人」
としてテレビ・舞台で活躍。同時期
から「お笑いジャーナリスト」として
出張授業、企業研修、講演、セミナー、
シンポジウムなど幅広い活動を展開。
中学・高校の社会科教員免許取得。



若い世代に政治や社会問題に関心を
持ってほしい。そこで注目したいの
が、たかまつななさん。フェリス女学院
出身という、お笑い界では異色の経歴を
ネタにした「お嬢様芸人」であり、お笑
いを通して社会問題を発信する「お笑い
ジャーナリスト」。全国の学校で出張授
業を展開し、中高生を笑わせながら政
治を楽しく伝えてきた。若者と政治をつ
なぐ取り組みから学べることがありそうだ。

お笑いという手法で
政治の敷居を下げる
「お笑い」よりも先に目を向けた
のは社会問題だった。小学校4年
生の夏、富士山の環境イベントに

参加したたかまつさんは、美しい
と思っていた富士山麓に大型ゴミ
が大量に不法投棄されている事実
に大きなショックを受けた。これ
を同世代に伝えたいと思い、中学
生になると読売新聞の子ども記者
に応募した。改めて取材をして記
事を書いたが、「友だちのお母さ
んには褒められました。伝えたく
かった同級生にはまったく届きま
せんでした(笑)」。

どうしたら伝わるのか……。
転機となったのは、中学3年生の
英語スピーチコンテストだった。
「英語の成績は下から数えた方が
早いですが(笑)。私がお笑いの
ネタをやったら、それまで爆
睡していた生徒たちが爆笑して
聞いてくれた。あのとき、お
笑いの力で相手に届くこと
を実感しました。

高校生の時には、YWCA
と縁のある「高校生平和
大使」に参加した。さ
まざまな場で核兵器廃
絶を訴えるスピーチ
をしたが、相手は既
に関心を持っている人たち
ばかり。「関心のない人にこそ知
ってもらわなければ、問題そのも
のは解決しないのではないか」と
思い、本格的にお笑いを学び、お
笑いを通して政治や社会の問題を
発信し始めた。

8

AUGUST
2018

No.745

www.ywca.or.jp

The Young Women's
Christian Association

YWCA

(第32総会期主題聖句)
平和を実現する人々は幸いである
—マタイによる福音書5章9節—

(日本YWCAの使命(ミッション))
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

(日本YWCAのビジョン)
地域で女性達が主体的に活動することを通して、
以下の社会をめざします。
(1) 平和憲法が生かされ、核も暴力もない社会
(2) 女性と子どもの尊厳を守る社会
(3) 若い女性がリーダーシップを発揮する社会
(4) 多世代・多文化で多様な背景を
持つ人びとを尊重する社会

エンパワーするNGO



YWCA
フェスタ

in京都

みんなでつくりだす
YWCAの未来

2018年5月19日・20日



青 葉が映える
初夏の京都
を舞台に、YWCA
フェスタが2日間に
渡って開催。全国
の地域YWCAから
約140名が一堂に
会した。

今 回のテーマ
は「みんな
でつくりだすYWCA

の未来」。YWCA運動の歴史を振り返り、世界YWCAが示す
2035年への共通目標を確認し、日本YWCAの現状把握と
「2035年中長期ビジョン」の提示で幕を開けた。次いで、複
数の地域YWCAで企画するプログラム「地域YWCAを主体と
した活動」のプレゼンテーション。今期は7つの活動企画が
実施される。前期よりも参加地域が増え、この取り組みの浸
透と発展が伺えた。夜の大会では食事を共にし、ライブ
やゲームで盛り上がり、親睦を深めた。

2 日目の朝は、国際プロ
グラムに参加したユース
による報告会がもたれ、早
朝にも関わらず大勢の人が詰
めかけた。日曜礼拝では、京
都YWCA会員で日本基督教団
宣教師のマーサ・メンセンディ
ークさんから「若者は幻を見る」
と題したメッセージをいただい



た。午前中の分科会は、「2035年中長期ビジョン」のキーワ
ード「若い女性の主体的な活躍」「セーフスペース」「持続可
能な団体」「揺るぎないミッション」に分かれて意見を出し合
った。その後、平和、多文化共生、自然エネルギー、ジェン
ダー、ミドル、中高YWCAなどのテーマで分科会が行われた。
ユースは独自に企画したフィールドワークを実施した。フィナ
ールでは、YWCAの設立
者に学び、未来の会員に
より良いYWCAを手渡せ
るよう共に歩もうと思
いを分かち合った。テー
マの通り、世代を超えて
手を携えて未来への道筋
を考えた2日間になった。



身近な人に
手渡したくなる!
『そうだったのか! 憲法』
2017年2月号の特集「そうだ
ったのか、憲法」がポケット
サイズで登場。
憲法に関心の低い若い方に
も親しみやすい一冊です。
ご希望の方は「ポケット版希
望」と明記したメールを日本
YWCAまでお送りください。

メールアドレス office-japan@ywca.or.jp

ご注文
受付中

- (2018年4月16日~6月15日現在 敬称略)
- 世界YWCA総会派遣募金 匿名
 - 東日本大震災被災者支援募金 鶴崎祥子、小林瑛子、柏木妙子、牧甫
 - サビネールガー 学校法人捜真学院、捜真女学校奉仕委員会
 - 匿名 学校法人大阪女学院、中等学校宗教部
 - 匿名 世界YWCA総会派遣募金
 - (熊本地震被災者支援募金) 鶴崎祥子
 - (国内外の災害被災者支援) 匿名
 - 災害時支援募金
 - 匿名 (オリブの木キャンペーン募金) 鶴崎祥子、張善花、坪野えり子、森川和恵
 - 国中正人、重松よし子、公益財団法人京都YWCA 匿名
 - 匿名 日本福音ルーテル本郷教会、日本福音ルーテル教会、学校法人宮城学院、中学校・高等学校、学校法人共愛学園、スプリング株式会社
 - 匿名 (ピアスメーカー募金) ビスメア・カズマ
 - 匿名 (金和を創り出す女性のリーダーシップ養成) 鶴崎祥子、雀部真理、谷川いづみ、手島千景
 - 匿名 日本聖公会北見聖ヤコブ教会
 - 匿名 鶴崎祥子、谷川いづみ、郡葵子、板橋優子
 - 匿名 東彩子、渡辺眞知子
 - 匿名 黄助貴

ご協力ありがとうございます

※1 毎年ジュネーブの国連本部や世界YWCAを訪問して、核兵器の廃絶を訴える高校生使節。任期は1年。

2万人の高校生が受けた「笑える！政治教育ショー」

慶應義塾大学に進学後は、学生、お笑い芸人、お笑いジャーナリストなど、いくつものワラジを履いて疾走してきた。社会問題をお笑いのネタにするのは難しい。「それはお笑いなのか」と言われることもあった。

「私の一番の目的は、笑いを届けることではなく、社会問題に興味を持っていただくことです。そこに自分の活動の価値があると考えています。」

お笑い政治ライブを行っても、観客席は政治に関心のある大人ばかりで高校生が来ることはほとんどなかった。「それならば学校現場に直接出て行くぞ！」授業だったら生徒はみんな参加する。そこで考案したのが、「笑える！政治教育ショー」というワークショップ型の「授業」だ。民主主義や選挙の仕組みを身近なものに置き換えて楽しく考えたり、若者に人気の「人狼ゲーム」を使ったロールプレイングゲームで政治を実感したりする、生きた主権者教育の実践だ。教師の間でも評判を呼び、全国の中学、高校、大学から依頼を受けて「授業」



外務省による国際協力60周年特別番組のレポーターとしてバングラデシュを訪問(2014年)

のを優先して、みんなの意見を反映させていくが、それが政治で意思決定ってそういうこと。そこから分かってほしいです。そう語るたかまつさんだが、社会問題の現場で抵抗を感じることがある。自分の意見が絶対で反対意見を全否定してしまう姿勢だ。「自分の主張が絶対に正しく、反対意見は間違っている」と本当に言い切れるのでしょうか……実はとても難しい議論ではないかと思えます。

みんなの1歩で社会の問題は解決する

「高校生平和大使の『微力だけど無力じゃない』というスローガンが好きなんです。1人の100歩よりも100人の1歩で社会は変わると思っています。みんなが



選挙に無関心だった生徒たちから「考えが変わった」「友達を説得して選挙に行く」といった声が寄せられた

を行ってきた。これまでに受けた生徒は2万人に上る。「授業では、エンタメ(エンターテイメント)要素を多く取り入れています。中高生のトレンドや流行を探って、いいと思えば取り入れます。芸人でなくても面白く教えられるように『教材』としてのクオリティを高めて、いずれは学校の先生にも使っていただけのものにしていきたいです。」

「エンタメには、違う視点を伝えたり、信じているものを疑わせたり、ハッとさせたりする役割があると思うんです」

ユース MEETS 政治



その1歩を踏み出すには、まだまだ政治や社会との距離があります。だから、お笑いという手法で敷居を下げたい。みんなが社会問題を『自分事化』して解決しようと取り組めば、世の中の社会問題はほとんどなくなるはずだ。そう語るたかまつさんが推奨しているのが「プロボノ」だ。「たとえば、平日はエンジニアとして働く人が、週末はスキルを生かしてNPOのウェブサイトを構築を手伝うことで社会課題の解決に貢献できます。お仕事でうまくいかないことがあっても、スキルや能力への自信につながります。誰にでも自分事化しやすい社会の課題があるはず。社会にどのような課題があるのかを知ることが大事だと思います。」

背景には「若い人にとって息苦しい社会」がある。超少子高齢化の現代社会では、政治をはじめ、若者のニーズをすくい上げる「市場」がない、と映る。「若者の意見が反映されていない。本当はもっと子どもを大切に、教育に

投資するべきです。若い人は草食系、悟り系といわれますが、スモールな世界で半ば諦めに近い気持ちでいる……怖いことではないでしょうか。」

「民主主義や政治が学べるはずの生徒会は先生に従う組織になっていた。家庭内でも、決定権は大人にあるのが当たり前だったりしますよね。そこに若者たちは疑問を感じない体質になっています。主権者教育が進んでいる国では、学校に関する意思決定の場に生徒の代表が参加して大人たちと対等に意見を交わっています。意思決定の現場に若者がいるだけで、変わっていくでしょう。」

多様な思想に触れて本質を捉える教育を教育現場が中立性を重んじ、政治の話は一切しないのは本末転倒だという。

多様な思想に触れて本質を捉える教育を

教育現場が中立性を重んじ、政治の話は一切しないのは本末転倒だという。

感情が動けば行動につながる

面白い授業だが、笑ってお開きにするつもりはない。「当事者意識を持っていただき、行動に移してほしいです。ただ、感情が動かないと次の行動につながりません。たとえば選挙については、あえて『投票に行かないと若者はこんな風に損をする』と伝えることで、自分の一票の重みを実感してもらいます。実際に「授業」を聞いて投票に行ったと



「笑える！政治教育ショー」に先生も大笑。「参加型の授業の良さを実感した」など教師からの感想も好意的

「意外でしたけど、嬉しかったです。私は、世の中がトレードオフだということをすごく伝えたい。あちらが成り立てば、こちらは成り立たない。その中でどういっ



「悪い政治家を見抜く人狼ゲーム」のイベントには、ゲームは好きだが政治に関心のない社会人も多く参加した(2017年)

「政治や宗教にあえて触れない教育によって、若者は最初に出会った強いイデオロギーに染まってしまう。疑うことをしないのです。10代のうちから社会との接点を持ち、いろいろな思想や考え方に触れてもらうことで、本質を

捉える力が養われると思います。たかまつさん自身は、フェリス女学院中学校に入学した当初、自分の意見をはっきり言う勝ち気な同級生たちに困られて引いていた。「自己主張の強い人は苦手だったので、卒業する頃にはなぜか自分もそうなっていました(笑)」。フェリスでの中高6年間、休み時間に友だちと社会問題について意見を交わすことが日常的だった。2泊3日の修養会では「友だちとは」「信じる」といった本質的なテーマについて深く語り合った。

インタビュー・構成 編集部

「笑える！政治教育ショー」を読んでみよう

たかまつな / 著 『政治の絵本』

現役東大生のお笑い芸人が偏差値44の高校の投票率を84%にした授業



PRESENT 5名

弘文堂 / 発行 1500円+税

本文で紹介した「笑える！政治教育ショー」の完全書籍化。全ページにマンガ風的美丽イラストを入れ、超かんたんなコトバで政治の本質を伝えている。巻末には、生徒たちに人気の「悪い政治家を見抜く人狼ゲーム」用の美装カード付き。

応募締め切り 2018年9月14日(金)

応募方法はこちらから

※3 専門の知識・スキルや経験を生かして社会貢献するためのボランティア活動。

※2 自身の正体を隠し欺いたりしながら相手の正体を探る、会話と推理で展開する心理ゲーム。

核 兵器による惨事を繰り返さないために、1971年から毎年8月に広島で実施。被爆者の証言、原爆の痕跡を巡るフィールドワーク、グループワークなどを通して、戦争とは、平和とは何か、を考えます。全国の中高校生・大学生を中心に、留学生や韓国・中国からのゲストなど幅広い世代、さまざまな文化の人々が参加しています。プログラムの英語名は「Pilgrimage to Hiroshima (広島への巡礼)」。その名の通り、国内外から訪れた参加者は、ここで平和への思いを新たにそれぞれの地へ戻っていきます。



中高生・大学生を中心に
多世代で学び合う
ひろしまを考える旅

参加しました!
・広島を知らない人に、ここで私が聞き取って感じてきたものを伝えることで感じてほしいです。それが、後世にヒロシマを伝えること。モデルになるのか。正直に平和とは一体何なのか。正直に言うともうまだ気持ち整理できず、重たさを感じています。もっと重たさを知った責任を、私はもっと考えていかなければならないと思う。



3日間の学びの集大成として、その年の旅のテーマについてさまざまなカタチで表現するグループワークを行います

中 国・南京で開かれる日本と中国の平和交流プログラム。「ひろしまを考える旅」の姉妹プログラムとして2007年からこれまで4回実施しています。日本、そして中国各地からユースが集い、日本軍による加害の歴史を訪ね歩き、共に平和を築く道筋を考えます。また、中国の豊かな文化に触れ、理解と友好を深めていきます。



加害の歴史を知り
豊かな文化に触れる
南京を考える旅

参加しました!
・日本と中国の国の壁を越えて、同世代の若者たちと心を開いて語り合った時間、また楽しく食事や分かち合った時間は決して忘れることができません。このような時間こそ今後の友好関係の鍵になると感じました。再び現地に足を運び、交流を続けることが大切であると肌で感じました。



加害と被害の立場を越えて共に歴史の真実を訪ね歩き、被害者の痛みを自分の事として受け止めていきます

国 連女性の地位委員会 (通称CSW / Commission on the Status of Women) は毎年ニューヨークの国連本部で開催される国際会議。世界中で女性が置かれている状況を確認し、女性の地位向上をめざすために協議します。世界YWCAは国連の協議資格を持つNGOとしてCSWに参加しています。日本YWCAからも毎年ユースを中心に派遣しています。日本の現状をアピールするイベントの開催、国連本会議の傍聴、世界各国の若者が集うユース・フォーラムなどに参加します。



国際政治の中心で
ガールズパワーを発揮
CSW (国連女性の地位委員会)

参加しました!
・自分たちの力を信じて、世界が良くなることを真剣に考え、実行し発信する力を備えた若者がたくさんいました。世界の舞台上で、学生の子どもが自分の意見を表明していました。「私たちが若者の可能性のなんと大きいこと!」とワクワクさせられました。若者が力を発揮し、新たなムーブメントを起こせるような場を創りたくありません。



国際的な意思決定の場を体験したり、世界のユースと意見を交わしたり、さまざまな刺激に心が躍動します

日本YWCAのユースの
リーダーシップ養成プログラム
1歩を踏み出そう!
私たちは未来のチカラ



ユース (30歳以下) が主体的に社会の課題を解決しようとリーダーシップを発揮したら、平和な社会が創り出せる——と考えて、日本YWCAはユースのリーダーシップを養成するプログラムを展開しています。各プログラムでは、国内外から集まったユースたちが、数日間を共に過ごして、社会の課題を目的にします。そして、異なる意見や新しい視点に接し、それぞれの想いや考えをコトバにして共有します。本紙巻頭インタビューで、たかまつななさんが「感情が動いたら行動につながる」と指摘しているように、プログラムを通して感情を揺り動かされたユースたちは、それぞれの1歩を踏み出します。また、いずれのプログラムもユースたちがインターンやボランティアリーダーとなって運営に参画しているのも特徴です。



日 本と韓国のユースが出会い、寝食を共にしながら、学び、考える草の根の国際平和プログラム。メディアの情報を通して見るのではなく、顔を合わせてお互いを知ることで、平和につながる信頼関係を築きます。これまで、環境、ジェンダー、原発、生きづらさなど日韓両国に共通するホットな課題を取り上げて、見聞し、歩き、感じ、語り合い、理解と想いを深めてきました。ユースの実行委員たちがプログラム全般の企画立案・運営を担う、ユースによるユースのためのプログラムです。



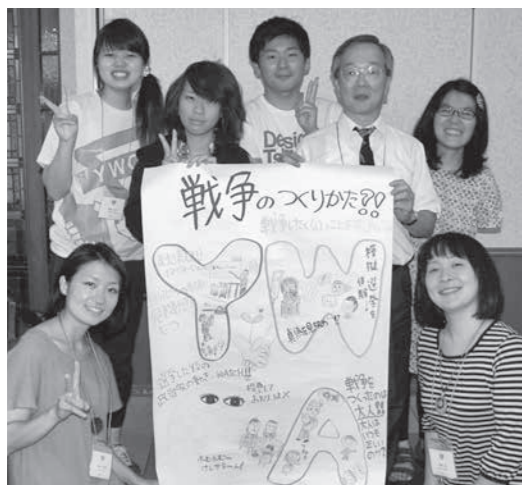
2017年度は大阪で開催。フィールドワークでは鶴橋や釜崎を訪ねました

ユースによるユースのための国際交流
日韓ユース・カンファレンス



参加しました!
・韓国のメンバーたちと話をしながら、私はやはり国際的に活躍したい、ということを感じました。また、同じ国なのを知りませんでした。これをいかにほかの人に知ってもらおうかというのが、今の私の課題です。私の国とは違う文化があることが分かった。英語や韓国語と努力し、お互いの話を理解できた時、とても嬉しかったです。

学びから見えた課題を解決するために、日韓の若者が共同して取り組む「アクションプラン」をみんなで考えます



初めて参加した「ひろしまを考える旅」でグループワークのメンバーと(前列左)



CSWのワークショップでは「ひろしまを考える旅」での経験を共有。世界各国の参加者と意見を交わした

■そのままの自分でいいんだ
私がYWCAで得たことの一つは、そのままの自分でいいんだと



大阪YWCA会員 栗田明日香

3か月前にメキシコ旅行から帰ってきた。メキシコには5か月間滞在し、訪れた先でさまざまな出会いがありました。森林と人間の共存を目指す牧場主、「おもしろい話をするからお金をちょうだい」と声を掛けてきた子どもたち、アメリカ在住の白人至上主義的メキシコ人マダムなどなど。いろいろな視点からメキシコについて見聞きすることができました。そんな旅行から帰ってきて、日本で再び就職するために自分のキャリアの棚卸をしているうちに、YWCAで多くの学びがあったことに気づきました。

自分らしさを発揮していきいきと活躍しよう

■多角的に見ることが大切
私がYWCAと出会ったのは、ちょうど一つ目の仕事を辞めた時でした。やっとながなことに挑戦し、人とのつながりを広げたいと思っていた時に、大阪YWCAの子ども向けプログラムのボランティアを見つけました。それから2年後、「ひろしまを考える旅」に参加しました。戦争の歴史を知るだけでなく、海外の参加者からは学校で習ったこととは異なる歴史観を聞きました。この時のショックは大きく、物事を多角的に見ることが大切であると学びました。翌年は、このプログラムのボランティアリーダーに応募し、初めて大人向けの



メキシコで仲良くなったおばあちゃん子どもたち。スペイン語の練習相手になってもらった

既に関わっているユースのみなさん、これから関わりたい、プログラムに参加したいと考えているユースのみなさん、ぜひいろいろなことに挑戦し、たくさんの人と出会ってください。みなさんが自分らしさを発揮して、いきいきと活躍されることを願っています。

という自信です。この自信を得たことで、人と協議をすること、人とのつながりを大切にできるようにになりました。また社会問題やジェンダーの視点も学びました。二つ目の仕事は女性の福祉に関するものだったので、YWCAで得た視点はこの仕事をする上で助けとなりました。また海外の人とお互いの社会や歴史について話す時にも役立つ

1歩を踏み出したいユースたちへ

私らしさをチャレンジしよう!!

思いきってプログラムに参加して、たくさんのお出会い、つながり、発見や学びを通して心が躍動したら、また別のプログラムに挑戦してみたいかな。こうして複数のプログラムに参加するユースが多いのもYWCAの特徴です。ここでは、2つのプログラムを経験したユース世代の会員にメッセージを寄せていただきました。YWCAに関わって2年目のフレッシュな村田彩華さん、6年にわたってチャレンジを続ける栗田明日香さんです。

そのアクションは必ず誰かの心に響きます

2017年度の「ひろしまを考える旅」と「CSW」に参加した村田彩華です。2017年10月からポーランド共和国の大学に進学して、今年の10月から2年生になります。

の方と共に考えたからです。同じ教育を受けた者ばかりが集まると、最終的に多数が同じ考えになりがちです。実際にプログラムでは、海外の方の意見に、ハッと気付かされることが多くありました。CSWでは、これまで自分の内に抱

えていた心の健康、摂食障害、Body Imageについてジェンダー問題と絡めながら話す機会をいただきました。逆に、自分とは全く異なる状況でジェンダーの問題に取り組んでいる世界のユースたちの話も聞くことができ、見聞が広がりました。

プログラムを通して実感したのは、どんなに若くても、参加しよう、経験しよう、共有しよう、声を上げようという姿勢は必ず誰かの心に響くこと。受け止めてもらえるということ。そして、私の発信していきたい内容や自分の進むべき道も少しずつ見えてきました。



「ひろしまを考える旅」オプションツアーでお好み焼き(右から2番目)



CSWで日本のジェンダー政策に関するイベントを手掛けた

プログラムに参加して感じたYWCAの魅力は、年齢、性別、宗教観、出身、学歴などに関係なく、全員に、考えて発言する機会があることです。そして、他者の考えを否定しないよう努めていること。これは意識していても簡単にできることではないと思いました。もしYWCAのプログラムに少しでも興味を持っていたら、チャレンジしてみてください。YWCAはみなさんの挑戦を暖かく応援しているコミュニティです。

広島YWCA会員 村田彩華



「Fearless Girl(恐れを知らない少女)像」を見学。ウォール街を象徴する「雄牛像」に、果敢に挑むように立っている